

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3791500022		
法人名	株式会社 香風		
事業所名	グループホーム プラム		
所在地	綾歌郡綾川町滝宮1122番地2		
自己評価作成日	令和1年12月6日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和2年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の医療機関と連携し体調や健康管理に努めています。多職種連携体制により、相談しやすい体制にあり、栄養面やリハビリ面での課題も早期に対応できています。日々の介護を丁寧に行うと共に、タクティールケアの考え方をもち、介護動作以外で「あなたを大切に思っていますよ」という気持ち伝わるように、寄り添う時間を大切に考え、意識的にスキンシップに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

母体の医療機関との連携が緊密であり、医師はもちろん、看護師や理学療法士、栄養士等、チームで入居者の支援を行っている。事業所では、法人の理念にもとづいて、3か月ごとに具体的な目標を掲げ、理念の共有と実践に努めている。地域との関係も大切にしており、法人主催のゲートボール大会では、地域住民と職員がゲームを楽しんだり、そのあとに職員がミニレクチャーをするなど趣向を凝らしている。また、家族との交流においては、毎月、一人ひとりの利用者について、生活状況がわかるカラー写真とコメントを添えた便りを送ったり、家族会などを開催している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りや職員会議で理念を共有し、個別の支援ができるよう対応を検討し、実践につなげている。	法人の理念やグループホームの理念を踏まえて、3か月ごとに具体的な目標を掲げている。また、月に1回のユニット会にて、目標の達成度合いについて振り返りを行うなど、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区内の小学校の運動会や地域の老人会のゲートボール大会に関連施設と参加し、交流を図っている。郵便局での施設紹介や作品展を通して、グループホームを知ってもらえるようにしている。地域の知人の面会がある。	法人主催のゲートボール大会や地域の清掃活動、地区の運動会への参加を通して、地域との交流を図っている。また、事業所で作製した入居者の作品を郵便局に出展して、実際に見学に行くなどしている。町の介護予防サポーターが定期的に事業所を訪問してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のゲートボール大会に関連施設の職員と参加し、地域住民と交流し認知症などの勉強会を行っている。また、地域の郵便局での福祉施設の作品展に参加し、地域住民への理解を広げるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、日々の支援の様子や活動報告を行い、施設と家族、行政の意見交換を行っている。意見要望を支援に生かせるように努めている。この会をきっかけに地域の消防団の施設見学が実施され、施設の存在を知っていただき災害時への備えが出来た。	会場を町役場で行い、家族代表や民生委員、老人クラブ会長、町の主管課長、地域包括支援センター職員、法人代表者などが参加して開催している。事業所の活動をスライドで紹介するなど、工夫している。会では、制度のことや終末期医療、地域の現状など議論が多岐にわたることがあり、家族にとっても有益な機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員に町の健康福祉課課長、担当者、地域包括支援センターの担当者に参加していただき、施設の現状を知っていただき、協力関係を築けるようにしている。防災や介護保険制度などの質問も運営推進会議の時に答えている。	運営推進会議に町の主管課長や地域包括支援センター職員が参加しており、その際に交流を図っている。事故報告書などは直接、役場に提出に行くなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関連施設との身体拘束委員会において、身体拘束について理解を深め、拘束のないケアを目指している。ほかの代替策がなく、四点柵などをさせていただく場合は、ご家族に同意を得ており、入居者の心身の変化にも注意している。建物の玄関の施錠は、夜間のみとしている。グループホーム入り口は施錠しており、インターホンで確認している。施錠については、家族に説明し理解を得ている。	毎月、法人全体で身体拘束について委員会を開催しており、各事業所の現状を報告したり、拘束解除への取り組みを共有している。また、委員会の中で精神科医からのミニレクチャーもある。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連施設全体の研修会で虐待について学習している。職員の対応が虐待につながっていないかを申し送りやカンファレンスで点検し、問題があれば改善するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連施設全体の研修で学んだりや介護実践者研修などに順次参加し、知識を深め、学んだ知識を共有できるように努めている。関連施設の居宅支援事業所の職員に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学していただき、説明を行っている。契約書などの書類は読み上げ、できるだけ細かく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で意見交換の機会を設けたり、アンケートを実施し、意見や要望を職員間で共有し支援に生かせるように努めている。また、面会時等に家族から意見や要望を聞くようにしている。	運営推進会議や家族会などで、意見や要望を表せる機会を設けている。家族会では、毎年趣向を凝らした企画を提供し、会に対する感想や事業所に対する意見などのアンケートをとっている。月に1回、利用者一人ひとりに事業所での状況をカラー写真やコメントを添えて、家族に送付するなど、家族との信頼関係を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやユニット会議などで、要望や意見を聞き、改善できることは実行し、また多職種から意見をもらいたい内容については、毎月のグループホームカンファレンスで検討し報告している。	毎日の申し送りで密にコミュニケーションをとっている。また、毎月のユニット会で意見交換したり、グループホーム会と称して、関連事業所と合同で会合を設けており、その際に、法人の代表者と意見を交わしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の申し送り時に意見交換を行っている。職員とは随時話す機会を持ち、気づきや改善案を取り得れ、協力して仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に1回関連法人内での研修を行っている。実践者研修や外部での研修に順次参加している。関連施設の専門職からケアの方法を習い、日々の介護に生かすようにしている。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修や外部の介護・医療研修に参加し、交流を通して、職員の介護サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問して本人と面談し事前調査を行っている。また、家族に施設内を見学していただき、管理者や計画作成担当者が生活の意向を本人や家族から聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人や家族から思いを聞くようにしている。担当ケアマネージャーからも意見や様子を聞き、関係作りができるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーとも連携し入居がふさわしいか検討する。他業種からの意見も聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に合わせて、できる範囲で家事参加を促し、役割を持って生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や家族会などの行事に参加していただいたり、毎月のお便りや面会時に日頃の様子をお伝えするようにしている。家族会や行事の際にはアンケートを書いていただき、運営に反映するようにしている。家族も一緒にグループホームでの生活を作っていると実感していただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、親せきや趣味の集まりの友人の面会もあるので、馴染みの関係が途切れないように努めている。	面会は基本的に自由であり、かつて俳句クラブに入っていたときの仲間が入居者を訪ねてくることもある。また、外出で滝宮天満宮など、町内の馴染みの場所に行くなどしている。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションへの参加を促している。利用者同士が協力して家事参加できるように、働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への移動後も訪問して状況を聞いたり、問い合わせ、相談対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望や意向に添えるように個別に話を聞くように努めている。思いが伝えにくい入居者には、職員で話し合い、その人らしい生活ができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や様子を本人、家族、担当ケアマネジャーから聞き取りし、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやユニット会議で、入居者の状況を把握し、対応の工夫が出来るように努めている。できることを見つけ、作業や家事などに参加できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りやユニット会議や、毎月の主治医や多職種を交えてのカンファレンスで、状況把握し、多職種の意見を把握し、支援に生かせるように努めている。	ユニット会議や主治医をはじめとする多職種参加のカンファレンスなどで出た意見を計画に反映させている。また、モニタリングを毎月行い、現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やケア、支援の内容を生活記録に記入し、毎日の申し送り時に共有している。		

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設の多職種に入居者の状態や対応の方法を相談し、その時々にも生まれるニーズに早急に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の関連施設と合同で、地域の獅子舞に来てもらったり、地域の郵便局の施設紹介や作品展に参加するなどをしている。昔馴染みの行事に参加したり、自分のできることを見つけて作品を作ったりして、日々の生活を豊かにできるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しており、内科と心療内科の往診があり、状況を報告したり、緊急時にも対応できるようにしている。皮膚科、歯科往診もあり、適切な医療が受けられる体制にある。	母体の医院から内科、心療内科の往診がある。緊急時にも主治医と連絡が取れる体制になっている。入居前からのかかりつけ医の受診は、家族の協力のもとに受診をしている。また、皮膚科や歯科往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、訪問看護師に夜間や日中の体調や状態を報告し、適切に医療の対応ができるように医療機関と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が近隣にあるので、急変時にはすぐに相談でき、受診や入院などの適切な対応が行われている。入院中も医療機関の主治医やソーシャルワーカーと連携し、情報交換に努めている。退院前カンファレンスなどにより退院後にスムーズな生活ができるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応方針を作成しており、入居時や病状によって随時説明し意向を確認している。家族や本人、医療機関と方針を共有している。	終末期の対応方針を明文化し、入居時に説明し意向を確認するとともに、状態の変化に応じて、意向を適宜、確認している。看取り期に入ると、主治医の指導のもと多職種で支援に取り組んでいる。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連法人内での研修で、緊急時の救命法講習を行って、急変や事故に応じた対応ができるような知識や実践を学ぶ機会を作っている。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連法人で年2回防災訓練を実施し、避難方法を確認している。運営推進会議でも報告し、防災について協議している。3日分の備蓄品とランタン、ラジオ、懐中電灯などを備えている。地域の消防団にも施設内を点検していただき、防災時には駆けつけてくれるようになった。	年に2回、火災や地震を想定して防災訓練を行っている。備蓄品などもリストを作成し、管理している。運営推進会議での報告がきっかけで、地元の消防団が事業所を点検に来るなど、協力関係を築いている。	2階に重度の利用者が生活していることを踏まえ、夜間の災害時の避難誘導について、検討を重ねること。また、備蓄品についてもさらに必要なものを増やしていくなど期待したい。地域の消防団との継続的な連携にも努められたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた対応や声掛けをするように努めている。重度化し、トイレの扉の閉会がしにくいと、カーテンを取り付けてプライバシーを守れるようにしている。入浴は個々に行っている。	訪問調査時、両ユニットの目標に「言葉遣い」を掲げており、利用者の人格を尊重しようとする姿勢がうかがえる。法人全体でも、個人情報保護やプライバシーなどの研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替える服を自分で選んだり、居室で休みたいか、ホールで過ごしたいかなど、その都度声をかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	孤立しないように声かけし、食事はなるべくホールで一緒にするように促しているが、心身の状態に応じて居室で休む時間を持ったり、個別で趣味を行ったりしている。介護動作以外に、入居者とゆっくり過ごしたり、触れ合う機会を確保し入居者に感安心感を持ってもらうように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回美容師に来てもらい、希望を聞きながら散髪をしている。外出時には、お化粧をされることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に季節を感じるような料理を取り入れている。誕生日には、好みの料理やお祝いのケーキを作り楽しんでいただけるような工夫をしている。調理や配膳、食器拭きなどを行っている。	職員が献立を考えて、各ユニットで調理している。月に数回、法人の栄養士が調理指導に入り、味付けや調理形態などの指導をしている。調理では、食器拭きや、巻き寿司を巻いてもらうなど、利用者の有する能力に応じて、手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の管理栄養士による栄養指導を受け、バランスよく適切な量が摂取できるように努めている。個々に応じて、安全に食べられるようにペーストや刻み食にしたり、とろみ材を使用している。		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医療連携歯科医の協力で歯科検診を実施し、個々の口腔内の状態を把握している。食後に口腔ケアを実施し、残渣が無いように対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動を観察しできるだけトイレで排泄できるように誘導している。声かけや誘導の仕方を職員で検討している。	定時の誘導に加え、個々の排泄パターンを把握して、早め早めに誘導をするなど、排泄の失敗や尿パッドなどの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時と15時の水分補給の時間を作っている。個別に水筒を持ち、自主的に水分を取っている。水分が取りにくい場合ゼリーを用いることもある。食事に繊維質の食材を取り入れている。排便をチェックし個別に期間を把握し、下剤や整腸剤等の服用、調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を職員と1対1でゆっくりと話せる時間として大切にしている。浴槽へ入りにくくなった入居者の為に、バスボードを設置したり、安全に入浴が楽しめる工夫をしている。	週に2～3回、入浴できるよう支援している。重度の入居者には、理学療法士の指導の下、福祉用具を活用し、浴槽に入れるよう検討したり、困難な場合は足浴を併用するなどして、少しでも快適に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分に睡眠を取れるように、日中の離床を促している。個々に応じて睡眠剤を服用している。季節に合わせて寝具や室温の調節をを行い、清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関の往診時に処方薬について医師看護師に確認して職員間で周知するようにしている。。カンファレンスでの事例検討で取り上げ変化や薬の作用について検討する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや得意なことに合わせて脳トレや手芸、調理、野菜作り等に参加している。在宅時からの趣味を続けている入居者もいる。		

49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて中庭で外気浴をしている。季節に応じてドライブを計画している。買い物等の外出は、家族にお願いしている。	天気の良い日などは中庭で外気浴をしたり、野菜の水やりをするなどしている。花見や初詣など、季節の節目節目にドライブに出かけている。外食や買い物などは、家族の協力を得ている。	町のボランティアグループなどと相談しつつ、少しずつ外出の頻度が増えることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物品は家族に頼んでいる。外出時に買い物ができるような取り組みも企画していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時には事務所の電話を使ってもらっている。本人宛の手紙は随時渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明、空調を調節して不快にならないようにしている。季節が感じられるようなカレンダーや壁飾りを掲示している。	各ユニットの入り口には、職員の顔写真が掲示されていて安心感を感じさせる。食堂にはさりげなく花を生けたり、季節の飾りつけや利用者の作品を飾るなど、生活感や季節感を醸し出している。ソファがあり、ゆっくりとくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、好みの場所でゆったりと過ごせるように努めている。食事の際は、入居者の状況に合わせて、また周りの入居者も落ち着いて食事ができるようは配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む家具は、基本的に自由であり、馴染みのある空間にしている。移動の動線を確保し、できるだけ安全に居室で移動できるように配慮している。	居室には洗面台とタンス、ベッドが備え付けてある。カーテンは持ち込んでもらっており、居室によって雰囲気が違う。法人の理学療法士が導線などを考慮し、安全に移動できるよう居室づくりを支援している。	

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりを配置し、移動時には手すりを持って歩行できるようにしている。台所もIHにしており、火を使わず入居者が台所に入っても安全に調理できるようにしている。トイレにはマークを表示している。</p>		
----	--	---	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りや職員会議、毎月のカンファレンスで理念を共有し、個人の入居者に合った介護や個人を尊重した対応ができるように努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の運動会に参加したり、郵便局での施設紹介や作品展示を通して、グループホームを知っていただけるようにしている。入居者の地域の知人が面会に来てくれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のゲートボール大会に関連施設の職員と参加し、地域住民と交流し認知症などの勉強会を行っている。郵便局での施設紹介や作品展示を通して、地域の人々への理解を広げるよう努めている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回町役場の会議室を借りて開催している。スライドを用いて日々の活動の様子や取り組みを報告し、意見をいただいている。いただいた意見や要望は、話し合い支援に生かせるようにしている。この会をきっかけに地域の消防団の施設見学が実施され、施設の存在を知っていただき、災害時への備えができた。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、町の健康福祉課の課長と職員、包括支援センターの職員に参加していただき、施設の実情や取り組みを報告し、入居者の声を伝え、協力を要請している。防災や制度への質問なども運営推進会議の時に答えてもらっている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関連施設との身体拘束委員会において、入居者が身体拘束によって受ける弊害について学び、拘束の無いケアを目指している。玄関の施錠については、日中は開放しているが、グループホーム1階への入り口は、交通事情を考慮して施錠している。

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の対応が、虐待につながっていないか、日々の申し送りやユニット会議で点検している。問題があれば、改善するように努めている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護実践者研修などに職員は順次参加し、意識を深め、研修結果を共有できるように努めている。関連施設の居宅支援事業所の職員に相談している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設内を見学していただき、十分に説明を行い、理解納得してもらっている。入居後も疑問があれば、その都度説明させていただいている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料支払いの時や面会時などに意見や要望をお聞きし、なんでも言える関係作りに努めている。家族会の時などにアンケートを用意し、意見を書いていただくようにし、その結果を職員で共有するように努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやユニット会議で意見を聞き、話し合いができるようにしている。毎月のグループホームカンファレンスで意見や提案を出せるようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の申し送りや時間を見つけては、個別に会話をして気づきや改善点などの意見を聞くようにしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修や実践者研修に順次参加して、介護力の向上を図っている。関連施設の理学療法士や管理栄養士からケアの方法を習い、介護に生かすようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修など外部の研修に参加して介護能力やサービスの質の向上に努めると共に、他のグループホームの職員と交流する機会を作っている。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に自宅や病院になど本人に会いに行き、面接させていただくようにしている。安心して話せるように関係を作り、意向を聞くようにしている。</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に施設内を見学していただき、本人や家族の意向を聞き取るようにしている。担当ケアマネからも情報をいただき、関係作りができるように努めている。</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネとも連携し事前調査をして入居がふさわしいか検討する。他業種からの意見も聞くようにしている。</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>各入居者の能力に応じて、出来る範囲で家事参加を促したり、役割を持って生活できるように努めている。</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会を企画し行事と一緒に参加していただいたり、毎月のお便りを発行し日頃の様子をお伝えし、家族も一緒にグループホームでの生活を作っていると実感していただけるように努めている。</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族だけでなく、入居者の親戚、知人など馴染みの方の面会もあり、今までの関係が途切れないようにしている。面会は家族と相談の上、基本的には自由である。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>集団で行う体操やレクリエーションなどには、参加を促している。利用者同士で協力して家事参加できるように声かけている</p>

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への移動では、訪問して状況を把握したり、問い合わせ、相談対応している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望や意向に添えるように、個別には無しを聞くように努めている。思いが伝えにくい入居者については、職員間で話し合い、その人らしい生活ができるように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子や生活歴などについて、インタビューや家族、本人、担当ケアマネから聞き取りを通して把握するようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやユニット会議で、入居者の状況を把握し、対応の工夫をするように努めている。できることを見つけ、作業や家事などに参加していけるように取り組んでいる。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りやユニット会議で、毎月のカンファレンスでの医師を交えての事例検討で、入居者の状況を把握し、支援できるように努めている。支援の経過を日々の申し送りで把握できるように努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やケアを生活記録に記載し、日々の申し送りで情報が共有できるようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設の医療機関や理学療法士、管理栄養士にも本人の状態や意向、家族の意向を考慮した取り組みや対応を相談して、支援できるようにしている。

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	健康面では、医療機関と連携し、安心して医療が受けられるようにしている。また、近くの小学校の運動会に参加して、子供たちと触れあったり、町のボランティアの訪問で、一緒にレクリエーションをして、楽しみや憩いの時間を持てるように図っている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しており、内科と心療内科の往診がある日々の健康状態も報告し、異常時や急変時にも対応できるようにしている。歯科についても定期的な歯科検診を受けている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の訪問看護ステーションの看護師に、日々の状態を報告、相談しており、医師への連絡をしてくれている。適切な医療が受けられるようにしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が近隣にあるので、急変時にはすぐに相談でき、受診、場合によっては入院するなどの適切な処置が行われている。入院中も家族や医療機関のソーシャルワーカーや主治医と連携し情報交換し、退院後スムーズに生活できるように対応している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向を聞き、随時状態に合わせて意向を聞くようにしている。終末期対応方針を作成しており、家族 本人、医療機関と方針を共有している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での研修会で緊急時の救命法の講習を行っており、事故防止に応じた知識を学ぶ機会を設けている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回防災訓練を行い、法人全体で避難活動ができるよう防災計画を作成している。備蓄品のチェックも定期的に行っている。地域の消防団にも施設内を点検していただき、防災時には、駆け付けてくれるようになった。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた対応や声かけをするように努めている。トイレの扉の開閉がしにくい為、開放しているので、排泄時にはカーテンで目隠しができるようにしている。入浴は、個別に行い排泄や、更衣時のプライバシーが守れるようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替える洋服を自分で選んだり、居室内の私物の配置などできるだけ自己決定できるような声かけをするよう努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が孤立しないようにレクリエーションや作業。家事への参加を声かけしているが、体調や精神状態に応じて、参加するように対応している。ご自分のペースで生活できるように見守る。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選んで着用したり、お化粧品もしてもらっている。馴染みの美容室に家族が連れて行くこともある。定期的に訪問の美容師を頼んでいる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を聞き、献立に取り入れたり、調理の準備・配膳・食器拭きなど入居者の能力を把握しその人にあつた参加を働きかけている。巻きずし、おはぎなど入居者に教えてもらいながら一緒に作り、提供することもある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の管理栄養士の指導を受け、栄養バランスよく適切な量が摂取できるように努めている。病食や食事形態、補食の提供もしている。状態に応じて、水分摂取量や尿量測定を行い、水分が摂取できるように努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医療連携歯科医の協力で、定期的に歯科検診を実施し、個々の口腔内を把握している。個別に義歯洗浄やブラッシングの介助を行っている。

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要でもトイレで排泄できる入居者は、生活記録を基にトイレへの誘導を行っている。リハビリパンツやオムツを昼夜で使い分けている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分摂取を多めにしたたり、腹部マッサージをしている。水分を多く摂取できるように嗜好を聞いたり、とろみ材を使用して飲み込みやすい飲み物を提供するようにした。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のプライバシーを守りながら、安全に入浴できるように入居者に合わせた入浴方法をとっている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に睡眠剤を使用している入居者もいる。日中の活動を増やし、穏やかに過ごせる雰囲気や環境を作るようにしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携している医療機関の往診時に処方薬について医師や看護師に確認している。薬局からの薬事処方箋もカルテに綴じ、日々の申し送り時に服用されている薬について、諸方の変更など確認し、理解し合うようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時からの趣味が継続できるように支援したり、子供の頃に楽しんだゲームなどを提案している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて、中庭へ出て、野菜の生育状況を見たり、外気浴をしている。季節に合わせて、初詣、花見 ドライブなどの外出を企画している。

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な物は、家族に持って来てもらっている。外出時に買い物ができるような取り組みを企画して行きたい。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者の希望に応じて、家族に連絡するなどの対応をしている。本人宛の手紙は随時渡している。</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビの音量、日光の眩しさをある程度調整している。トイレや浴室は分かりやすく表示している。月日を確認できるようにカレンダーや日めくりを掲示している。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファを設置し、気軽に休息できるスペースにしている。食堂のテーブルや椅子の配置も入居者に合わせて配置するようにしている。</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に持ち込む家具については、基本的に自由である。自宅で使っていた馴染みある家具やテレビを持って来ている入居者もいる。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴室 トイレ 廊下に手すりを設置している。台所も安全性を考えIHにしている。トイレの表示もわかりやすくしている。</p>